

試合後半の接近戦。パンチで攻め込み、猛ラッシュをみせる一戸さん



一戸総太（山道）が 世界チャンピオンとなる

ウィラサクレック・フェアテックスジム主催
「M-FIGHT 「Suk.WEERASAKRECK III」 Part 2」
2013年9月15日（日）ディファ有明（東京）
第10試合 WPMF世界スーパーバンタム級タイトルマッチ
3分5ラウンド
○一戸総太（ウィラサクレック・フェアテックス三ノ輪ジム）
●ムアンボン・N & P ボクシング（タイ）
※TKO（4ラウンド2分43秒）
※一戸総太が新王者となる



△左ハイキックを受け、対戦相手はダウン（奥が一戸さん）



△新調したガウンを着て入場

9月15日（日）、ムエタイ（タイ式ボクシング）のWPMF世界スーパーバンタム級王座決定戦がディファ有明（東京）を会場に行われ、試合に挑んだ一戸総太さん（山道）が激闘の末に勝利しました。この日、鶴田町から世界チャンピオン「一戸総太」が誕生しました。

練習を重ねて培った 強い肉体と精神力

今年6月にWPMF日本スーパーバンタム級王座を獲得し、2階級制覇を達成した一戸さんが次に挑んだのは世界王者の座でした。対戦相手はムエタイの本場タイのムアンポン・N&Pボクシング選手。メイニンベント3分5ラウンドで行われた試合の序盤は互いに距離を取り、相手の攻撃をうかがう心理戦。初めは目立った大きな攻撃はなかったものの、途中経過のジャッジによる点数が一戸さんが優勢であることが伝えられると、第3ラウンドからは火が付いたようなラッシュで一戸さんが攻

撃。接近戦に持ち込むと、徐々にペースを掴んだ一戸さんがパンチで攻め続け、相手にダメージを負わせていくと、第4ラウンドには相手がひるんだ所に左ハイキックが決まり、ダウンを奪い、見事勝利しました。

「今回の試合は彼の体幹の強さが光った」と語るのは、普段から一戸さんのトレーニングを指導する川崎勝幸さん。一戸さんは他の選手とは異なり、通常の練習に加え、専用のベルトで体を固定し、体の動作の基本となる体幹を鍛え上げる「加圧式の体幹トレーニング」を行っています。川崎さんは「体幹が強いから試合の最後まで高い技術力を出せた。さらに言えば元々



△勝利後、世界ベルトを腰に巻く一戸さん

ムエタイ最高峰へ 日本人初の挑戦

の精神力の強さと持久力の高さも勝因です」と話してくれました。川崎さんは「彼が望む限りはこれからもトレーニングを指導していきたい」と一戸さんのさらなる活躍と伸びしろに期待を寄せていました。

一戸さんの試合には、地元から多くの知人・友人のほか、母の志美子さんや弟の康人さん、そしてジムで指導する生徒の子どもたちが応援に駆けつけました。「一戸総太」とプリントされたTシャツを着た応援団は「総太、総太」と大声援を送っていました。

母の志美子さんは「今日まで



△一戸さんの勝利に、歓喜に沸く応援団サイド

総太のベルトを巻いてる姿しか浮かんでこなかった。絶対に勝つと思っていた」と話し、そこには誰よりも息子の勝利を信じていた親の姿がありました。

試合後、「サッパリした」と自らの心境を津軽弁で表した一戸さんは、「自分のやりたかった攻撃ができなかった」と試合の内容には満足のいかない様子を見せる反面、「やっと世界のスタートラインに立つことができ

た」とこれから世界場で戦えることに安堵の表情を浮かべていました。11月に開催される大会では、ムエタイの最高峰であるタイのルンビニースタジアムが認定する王座への挑戦が正式に決定しており（日本人が挑戦するのは史上初）、次は「もっと強い相手と戦うことになる」とのこと。

世界チャンピオン「一戸総太」の快進撃はまだ続く。



△ヒザ蹴りが決まった瞬間。この攻撃以降、対戦相手のペースが崩れていきました